

全国農政連推薦・県農政連公認  
参議院議員藤木しんやの

永田町でも **百姓宣言**

「前を向いた対策を」

「豚コレラの発生拡大に危機感を」

日本国内での豚コレラ発生から半年以上が経過し、今もなお拡大が続いています。3月末には連日のように疑似患者が確認された旨の一報を受けました。現場で対応されている皆様のご心痛とご苦勞を考えると口蹄疫の時を思い出し涙が出そうになりますが、全力を挙げて終息へ向けた努力をしなければなりません。

農水省には豚コレラ防疫対策本部が設置され、吉川大臣が指揮を執っています。

全農では、JAGグループ独自の豚コレラ防疫強化策として、職員向けの防疫対応マニュアルを策定します。この間、農場での防疫対策や飼養衛生管理については行政機関の指導・徹底が厳しく行われてきたのだと思います。

先日行われた参議院農林水産委員会では、吉川大臣から速やかな経営再開への支援、何としても発生を食い止めるという決意がありました。私も畜産経営に携わってきた経験をしっかり活かして政府とともに取り組んでいきます。

【現場の知見を次の時代に生かそう】

来年度予算が参議院本会で賛



▲豚コレラの政府対応を問う

成多数で成立しました。一般会計の総額が過去最大ということで報道されました。農林水産関係予算は、2兆4315億円（前年比5.6%増）で3年ぶりの増加と言われますが、予算を食料生産への未来投資と考えるならば、あまりに少ないと言わざるを得ません。国民の食を支えることが、農家だけでなく国の使命でもあるはずです。国民の食への理解は、とても重要で、農業の応援団を増やしていかなければなりません。

4月1日は新元号「令和」が発表されました。「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」という意味が込められているそうです。地域や農村に息づく精神が表現されているような気がします。「平成」も残りわずかとなりました。平和の時代を振り返り、経験や体験から学び、そこから新しい知識として「令和」の時代を迎えたいと思います。

全国・県農政連推薦

参議院議員山田としおの

農政問題に斬り込む

緊迫し、盛り上がったJA全国大会

【総理の挨拶】

3月7日のJA全国大会で、安倍総理は「日本という国は古より朝早く起きて、額に汗して田畑を耕し、水を分かち合い、五穀豊穡を祈ってきた瑞穂の国であります」「皆で助け合いながらこの美しい田園風景を守ってきた、地域を守り、環境を守り、日本の伝統や文化を守ってきた、まさに農は国の基であります」と演説されました。大会の参加者の皆さんも、「大変いい挨拶だった」とおっしゃる一方で、「規制改革推進会議の農業・農協批判は一体何なんだ」とおっしゃる厳しい意見もありました。

【触れていたたたかかった、規制改革推進会議のこと】

まさに、総理の挨拶は、選挙を前にして、大変注意深い配慮した良い挨拶であったことを評価するもの、励ましが中途半端だったと思います。農業者が地域に根差し地域を支えていること、過疎化し住民が減少する中で、地域の協同を盛り上げているJAの存在や、その取り組みこそ励ますものであってほしかったです。やはり、全く配慮のないJA攻撃

を行う規制改革推進会議をそのままにしておきながらの政策推進のあり方は、全く納得できません。これは多くの農業者やJA関係者の思いなのです。

【自己改革を全力で取り組みます】

私は、緑のJAマークを背中に背負った議員であり、農業者やJAの取り組みを分断するような形で攻撃されたり、経済界が出資し設立している日本経済調査協議会の報告書にもあるように、「自由な生産・流通・販売のもとに、コメの価格を20年後に国際価格水準にする」というような提言を放置しておいて、または助長しておいて、農業者や、その協同組織であるJAに、「農政新時代」への転換を迫るような政策は容認できません。

総理の、「農は国の基である」「JAの皆さんには、国民への食料の安定供給と安全安心の確保、そして、農業の振興に大いに貢献をいただきたい」との言葉は本当に励みになります。しかし、その具体策に関しての規制改革推進会議等の各種の提言は、総理の大切な言葉を台無しにするものであると言わざるを得ないのです。

JAの自己改革は、全力で進めます。総理、大事な「ふるさと」と「日本」を守るべく、ともに全力をあげましょう。私も、全力で頑張ります。